

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070201142		
法人名	医療法人 正周会		
事業所名	グループホーム 玄海の森 (東館)		
所在地	福岡県北九州市若松区有毛2933-6		
自己評価作成日	平成22年4月5日	評価結果確定日	平成22年5月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム玄海の森では、入居者一人ひとりの希望や、家族の意向を踏まえ、その人らしく生活ができるよう支援し、入居者同士や、入居者と職員が交流を持つ時間を大切に、グループホームが安心し、穏やかに生活できる場所となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄海国定公園の東端に位置する若松北海岸のすぐ近くにあり、周辺には景勝地も多く、豊かな自然環境の中にある。同法人のデイサービス・老人保健施設・ケアハウスが併設・隣接しており、その連携を交流の機会やなごみの関係の継続、災害対策等に活かしている。「玄海の森」では、センター方式を活用したアセスメントの実施を重ね、一人ひとりの人物像を多方面から捉える取り組みを行っており、入居者・家族の出席する担当者会議を開催し、関係者全員で介護計画を作成している。また、毎月職員が交代でレクリエーション・行事を企画しており、桜の木の下で満面の笑みを見せる写真には、少しずつ重度化が進む中で、入居者全員の姿があり、「共に過ごす豊かな日々」という理念の実現に向けた取り組みを窺い知ることができる。家族との連携を図りながら、個々を尊重したゆとりとした暮らしを支援しており、職員は現状に満足することなく、向上心を持って課題に取り組んでいる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年4月20日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、誰でも目にする事が出来るよう玄閣脇に掲示し、常に意識して取り組むようにしているまた、理念を各スタッフが念頭に入れ、入居者第一で考え、行動するよう努めている	「自分らしくのんびりと、共に過ごす豊かな日々」という理念が、開設時に作られている。「共に」の言葉には、地域密着型サービスとしての思いが込められており、独自の理念を掲げ、日々実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の祇園祭りなどの行事に参加させていただき、また、近隣散歩時には顔を合わせた際には挨拶を行なうことで、気軽に話せる関係を築いている	同法人の関連施設(デイサービス・老人保健施設・ケアハウス)が近接しており、積極的な交流を行っている。地域行事である祇園祭りでは、子供神輿の巡行を見学し、子供たちとのふれあいを楽しんでいる。外出時の挨拶や会話を大切に、職員の家族も含めたボランティアとの交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症高齢者などの暮らしなどについて話し合いやアドバイスを行なうことはあるが、積極的に地域貢献には活かす取り組みは行なっていない		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議で報告を行ない、意見や疑問は議事録に明記、その後、スタッフで検討し、また、次回報告し、スタッフの周知に努めている	定期開催されている運営推進会議では、生活状況や行事等について報告がなされ、特に今年度は、インフルエンザ対策や災害対策について検討・意見交換が行われている。隣接する同法人施設からの出席もあり、協力体制を活用するよう取り組んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議以外で断続的な関わりを持っているとはいえないが、課題や疑問等が生じた際には指導・助言をお願いしている。また、月に2回、介護訪問相談員の受け入れを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる	資料等の情報提供を受けたり、疑問点や不明な点については、直接行政担当者とは話し、助言や指導を得ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄閣の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修・内部研修を実施し、身体拘束(言葉・行動制限・心理的拘束)をしない生活ケアに取り組んでいる。身体拘束0(ゼロ)マニュアルあり	年間計画の中で身体拘束についての研修を取り入れ、職員全員の意識を高めており、日々のケアを振り返りながら話し合いを行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。特に言葉による行動制限については職員間で相互に確認しながら、注意しあっている。日中、施設しないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・内部研修を実施。申し送り・ミーティングで「業務・ケアの中で虐待につながるような言動はみられないかをスタッフ同士随時確認している		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修・グループ内会議に参加した管理者が主となり、ホーム内にて研修会を実施。現在、制度を活用希望の入居者はいないが、希望時や必要性が感じられる入居者・家族にはすぐに、ご案内・説明ができるよう、資料やパンフレットを揃えている	管理者は、行政主催の研修や法人内研修において権利擁護に関する制度についての知識を深め、ホームでの伝達研修を行っている。必要時に活用に向けた支援が行えるよう、資料等を整備しており、今後は地域に向けた情報発信にも期待したい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時(解除時)には十分なお時間を頂き、内容や重要事項について一つ一つ説明を行なっている。不安・疑問点についてはその都度お尋ねし、理解・納得して頂いてから次へ進むようにしている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名で意見できるよう玄関ホールに意見箱を設置。馴染みの職員と会話できるような機会を設けたり、面会時にご意見・苦情はないかお尋ねしている	運営推進会議や担当者会議・介護計画説明時等において、家族から直接、意見や要望を聴けるよう関係作りを大切にしている。家族との会話は記録に残し、職員間で共有している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行い、情報交換・意見・提案はないかなどを話し合う機会を設け、検討している。また、日々の生活の中で、会話し意見などを求めている	毎月行われているミーティングでは、参加者全員が意見を出せるよう配慮している。テーマは日々のケアを中心として展開されているが、業務改善についても意見交換を行い、提案事項は代表者・管理者で検討し運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善が図れる場合は、できる限り早急に改善し、働きがいのある、環境・条件作りを努めている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢不問としている。職員個人の能力を活かすことができるよう、月替わりで担当者を決め、行事の企画・内容案を出してもらっている。資格取得・研修等についてもできる限り勤務調整の希望に応じている	職員採用は法人全体で行われており、グループホームからも面接に立ち会い、人柄等と共に認知症の方への理解の有無を重要視している。採用後は内外の研修受講を計画し、行事を企画運営する等の役割を担いながら、個々の能力を發揮できるよう配慮している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	プライバシー保護マニュアルを作成し、スタッフがいつでも見れるよう保管し、内容は、定期的に見直しを行なっている。また、外部・内部研修も実施している	プライバシー確保や身体拘束・高齢者虐待防止等、人権に関する具体的な研修を実施し、職員間の意識を高めるよう取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験年数や段階に考慮した、外部研修への参加。また、疑問・不安な点など、すぐに回答できることは、指導・助言などを行なえる環境を整えている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者研修・グループホーム協議会主催の研修に参加した際には、他事業所の方と言葉を交わせるように心がけ、顔馴染みの関係作りに努めている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には必ずご本人と面談を行い、言葉をかわず中で不安に感じていること、今求めていることを引き出せるように努めている。また、どのような話しても、否定・意見せず、傾聴するようにしている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に傾聴を心がけ、困っていること、不安、また、求めていることをいつでも話し合える、環境を整えている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族が現在必要としているサービスを状況・会話から見極め、その状況に応じた他のサービスの紹介を行ったり、在宅介護の相談・アドバイスを行なうように心がけている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本位の生活を第一に考え、どのように暮らしたいか日常会話の中で引き出すようにし、また、職員の知らない生活の智恵・歌など教えて頂いたりし、支えあいの関係作りに努めている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の共有化を心がけ、面会の際など、ご本人の心身状態や日頃の様子などについて話し合い、相談しやすい雰囲気作り、信頼関係を築いている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用されていた施設を訪問したり、馴染みの場所に、一緒に訪れてみたり、会話の中に取り入れたりして、交流を深めている	併設されているデイサービスやケアハウス・老人保健施設等の関連施設には、入居者の方々の知人・友人も多く、交流の機会を大切に支援している。また馴染みの場所や家族・知人の話題を取り入れ、思いを共有できるよう支援している。	

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	レクリエーション・行事などに参加して頂き、利用者 同士が関わり合えるように支援し、また、余暇時には、 スタッフが間に入り橋渡し役になるように努めている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、入居者と共に面会・訪問する等、 馴染みの関係を継続できるようにしている。また、ご 家族には季節の挨拶状をお送りするなどし、関係を 断ち切らないお付き合いをしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と会話し、思いなどの希望・意向を把握し、 また、困難な場合は普段の言動・表情などを記録し、 意向に沿えるように努めている。また、介助前にも 声かけし、希望・意向などを傾聴している	入居時、また定期的にセンター方式を活用したア セスメントを重ねており、会話や表情・行動等から 把握したことや、職員の気付きを記録し、職員間で 共有している。十分に時間をとっている担当者会 議には本人・家族の出席があり、会話の中から情 報を収集している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	アセスメントツールとしてセンター方式を取り 入れている。家族より情報を得て、また、日 常の会話より情報収集し、スタッフが把握で きるようにしている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	記録・ミーティング・アセスメントツールを利用し、 客観的・総合的に現状を把握し、共有 している		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人・ご家族に意向・要望を尋ね、また、 ミーティングなどで討議し、より良い介護計 画の作成に努めている	センター方式をアセスメントツールとして活用し、月 1回の担当者会議で関係者の意見を集約し、具 体的な介護計画が作成されている。担当者会議には 必ず家族の参加があり、信頼関係を深める機会と もなっている。今後、ケア計画実施記録を用いて、 日々の支援との関連付けを充実させていく予定と している。	充実しているアセスメントを活かして、 一人ひとりの希望や趣味、生活習慣 等、QOLを高める項目が挙げられ ると、更にその人らしさへの支援につな がると思います。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常生活での変化、異変・身体状 況・言動・精神状態など記録し、職員間で共 有し、会議・介護計画見直しなどで活かして いる		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な、外出・外泊希望また、遠方から来られるご家族にはホームにて宿泊していただいてもよいことをお知らせする、また、2Fデイサービスの大浴場で入浴していただく等、できる限り柔軟に対応できるように心がけている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時は、必要に応じて地域消防署の協力を依頼して。また、行事(地域主催のお祭り・他施設のイベント)がある際には、行き来しあう協力体制を作り、支援している		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、可能であれば引き続き、診察を受けられるよう支援している。また、医師へ報告・相談したいことがある際には、職員が受診に同行したり、情報提供書をお持ちするなどして、関係を築いている	本人・家族の意向によるかかりつけ医としており、家族が受診に付き添う場合は情報の提供を行っている。また職員が受診介助を行った場合には、家族に診察結果を報告している。母体となる医療法人との充実した連携により、適切な医療活用となるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院・関連施設の看護師とコミュニケーションはとれており、相談・疑問など気軽にアドバイスを受けれる関係を築いている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご本人・ご家族の同意を得て病院関係者に情報提供を行い、できる限り変化の少ないケアを受けられるように配慮している。また、面会に伺い、状態把握を行なうと共に、病院関係者・ご家族からの情報交換に努めている		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限りホームでの生活が継続できるように考えているが、明確な基準や方針は定めていない。また、終末期のあり方についても、現在、具体的な取り組みは行っていない	母体となる医療法人や老人保健施設との連携により、緊急時等の対応について充実した体制が整備されている。少しずつ重度化が進む中で、具体的なホームとしての方針を示していく必要がある。	少しずつ重度化が進む中で、本人・家族の意向を確認しながら、関係者間で方針を共有していくための取り組みが必要となります。本人・家族の安心につながる対応方針の共有に向けた働きかけを期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故時のマニュアルを定期的に見直し、ミーティング時などに入居者個々の急変の可能性、症状、対応について周知している		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルの見直し。また、年に2回、消防署・設備点検会社の協力を得て、訓練を実施。緊急時は、関連施設の協力が得られる体制を整えている	定期的な訓練実施後には、職員間で話し合いを行い、避難方法や課題についての検討を行っている。道路を挟んで関連施設(老人保健施設・ケアハウス)があり、災害時の協力体制が整備されている。今後も継続して、運営推進会議において報告・検討を行い、地域との関係性を強化して欲しい。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格・誇りを損ねることのないように、日頃から、敬いの心を持ち、職員同士、確認しあっている	センター方式の導入により、大事にしている事、こだわりや嫌な事を周知した上で、尊厳を損ねることのないよう対応に配慮している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように、簡潔な説明、選択肢を簡単にするなどし、支援を心がけている。また、外出場所・買い物など自己選択、決定できる機会を増やしている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の、状況・精神状態・体調などを考慮し、個々のペースを優先し、希望にそって生活できるように支援している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出・入浴時の衣装は自分で選んでいただき、また、困難な場合は、職員と共に行なうようにしている。希望時には、訪問美容を依頼し、カット・パーマ・カラーを利用している		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は各自、使い慣れた食器や好みの食器に盛るようにしている。また、野菜切り・盛り付け・下膳・片付けなどそれぞれの力に合ったお手伝いの参加をお願いしている	誕生日会では、嗜好に応じた献立をつくり買い物・調理を行ったり、また定期的な外食を楽しんでいる。職員の見守りやさりげない介助が行われ、それぞれのペースでゆったりとした食事を支援している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、同意を得て、刻み・一口大形態にして提供している。また、摂取量・水分量を記録し、摂取状況に合わせその都度、対応している		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ない、同時に、口腔内・義歯チェックも実施している。また、介助が必要な方は、本人ブラッシング後、不十分の箇所での介助を行なっている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェック表で、各個人の排尿パターンを把握し、日中は、声かけ・小介助・介助を行ない、トイレにて排泄している。できる限り失禁の減少を目指し支援している	月1回のモニタリングや担当者会議において、排泄支援について検討している。昼間はパットをはずすよう心掛け、排泄パターンにより、独自のシグナルや時間間隔に注視しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄感覚を維持できるよう支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を利用し、排便ペースを把握している。体操・歩行の時間を設け、運動を生活の中に取り入れ、また、水分・植物繊維を含む食物を摂取して頂いている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	設定時間は午後からになっているが、ご本人の状態・精神面を十分に考慮し、時間帯・入浴の有無を決定している。また、希望者は、同施設内の大浴場を利用することもできる	病状や体力を考慮し、また入浴拒否される方にも工夫し、2日に1回は入浴を行い、入浴の快適さを実感していただいている。浴室・脱衣室の温度管理にも注意され、必要時には複数の職員で関わる等、安全な入浴支援が行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気や倦怠感を感じられている時など、状態を観察し、夜間睡眠に影響を及ぼさない範囲で、臥床、安楽な姿勢をとって頂いている。夜間就寝時間は、個人の生活習慣に合わせて支援している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は介護記録とともにファイルし、すぐに確認できるように管理している。また、効能・用量は常に確認し服薬するように徹底し、副作用についても、いつ状態変化がみられるかわからないため、状態観察している		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かした役割やお手伝いをお願いしている。また、散歩・買い物・外食の機会を作り、気分転換ができるように支援している		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望時には、状態・天候(気候)を考慮し、外出を行なっている。また、家族を招いての食事をセッティングし、ご家族との交流が図られるように支援している</p>	<p>毎月、行事担当職員の企画により、季節や地域行事にあわせた戸外でのレクリエーションが実行されている。また併設されているデイサービスの行事にも参加しており、家族からも外出支援の充実には、喜びの声をいただいている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理については困難な方が多く、ご本人・ご家族の同意の下に金庫でお預かりしている。外出時は、職員介助のもと、お支払をお願いしている</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人が希望される際やお手紙を頂いた際には、返信用のはがきを準備したり、いつでも電話できるよう支援しています</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間を快適に利用していただくため、日差しが強い際には、よしずを立てかけたり、テレビ・音楽の大きさは適度は配慮している。また、居間には、毎月、壁面を付け替えたり、季節の花を飾るなどし、季節感を感じていただけるように工夫している</p>	<p>ホーム内は清潔感があり、入居者の方々が集うリビングからは、木々や草花の四季折々の彩を楽しむことができる広いウッドデッキへとつながっている。壁面には手作りのカレンダーや全員揃ったの花見の写真が掲示されており、飾り付けを共に行うことで、季節感や一体感を共有している。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースには、ソファー・和室があり、思い思いのお好きな場所で、余暇を過ぎて頂いています。また、希望があれば、椅子を移動し、希望に沿えるように援助しています</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベット・カーテン・タンスは備え付けとなっているが、それ以外のものは、ご本人が以前使用していた、馴れ親しんでいるものを持参して頂き、また、ご家族より、好みの物を持って来て頂いている</p>	<p>ベッドや家具のレイアウトは、ADLや安全性を考慮して配置されている。テレビを見たり、CDで音楽等を楽しんでいる方もおり、それぞれの個性が発揮されている。仏壇や馴染みの家具、大切なものが持ち込まれており、家族と職員の工夫が生かされている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下・浴室(浴室内)・トイレには手すりが設置されており、バリアフリー(和室以外)となっている。また、車椅子での生活の不備がないよう、廊下・トイレなども広い空間を整えている</p>		